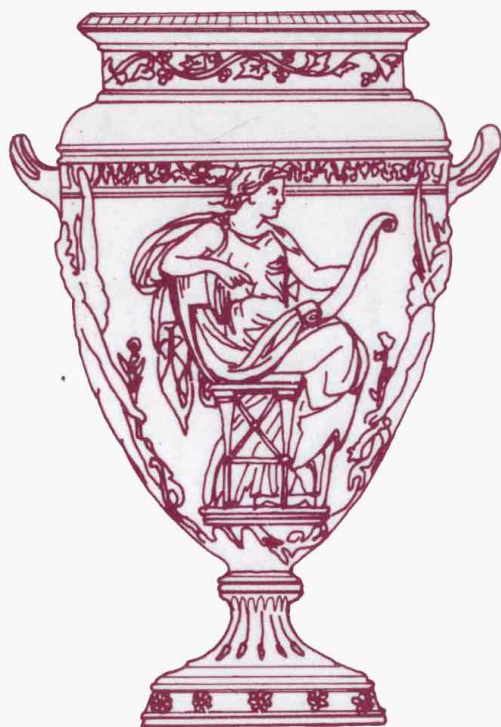


哲学用語入門

人間らしく生きるために

高間直道



大和書房

哲学用語入門

人間らしく生きるために

銀河選書

定価 八八〇円

©1988

著者 高 直 道
発行者 大 和 岩 雄
発行所 大^{だい}和^わ書 房

東京都文京区関口一〇三三

振替 東京六〇六四二二七

電話(二〇三)四五一一四

印刷・東光印刷 製本・東京美術紙工

乱丁本、落丁本はお取替えします(換印略)
発行年月日はカバーにあります

0310-140080-4406

哲学用語入門

人間らしく生きるために

高間直道



大和書房



東京医科大学教授

たかま なおみち

高間直道

著者から読者の方に およそ学問の目的というものは、私たち人類の幸福を容易に実現させること以外にはない。では、その実現はいかになすべきか？ 専門学者の手によって、それぞれの学問がますます深く研究されると共に、他方、細分化した学問を統合化し、あわせてその研究された成果が、できるだけ多くの方たちに理解されることだ。

この本が何らかの意味で、読者諸兄のめまぐるしい日常生活に、一つでもプラスするところがあれば幸いである。

著者紹介 1940年、早大文学部哲学科卒。1955年より東京医科大学教授。「哲学」「倫理学」を担当。難解だといわれがちな哲学を、身近な生活にどう生かしたらいいかという難問に取り組んで余念がない。

著書に、「哲学入門」「人生哲学入門」大和書房、「若き日の哲学者たち」大和出版、「哲学の基礎知識」「哲学用語の基礎知識」「現代を動かす思考法」青春出版社、「世界名言ノート」国土社 などがある。*





哲学用語入門

人間らしく生きるために

高間直道

大和書房

精神のあらゆる手段は言語のなかにある。
言語について省察しなかった者は、全然何も
省察しなかったも同じだ。

——アラン（*Alain* 1868～1951）——
フランスの思想家

はじめに

世間の方たちのなかには、「哲学」という文字の入った書物をごらんになっただけで、

「なんだッ！ 趣味と実益からは縁遠い哲学の本か……」

などと、頭から哲学書を毛嫌いなさる方があるかもしれない。私は申したい——それは食べず嫌いというものではないかと。

なるほど、むかしから「眠れないときには、哲学書か六法全書をひもとくにかぎる」といわれている。

たしかに、この国の哲学書には、睡眠剤の役目を果してくれるようなものの多いことも事実である。哲学者の略歴・思想・学説の説明が無味乾燥なうえに、特殊な用語や難解な用語を、さらにむずかしい用語で解説してあるからだ。専門の哲学者や哲学専攻の学生が相手なら、それもよい。しかし、教養として哲学を理解し、世界や人生についての疑問を少しでも解こうとなさる、

一般の方たちを対象にして書かれた哲学書にまでも、亡霊的なむずかしい用語が使われているような現状である。

先刻ご承知のごとく、およそ学問の目的というものは、私たち人類の幸福を容易に実現させること以外にはない。では、その実現にはいかにすべきか？ 専門学者の手によって、それぞれの学問がますます深く研究されると共に、他方、細分化した学問を統合化し、あわせてその研究された成果が、できるだけ多くの方たちに理解されることだ。つまり、学問の細分化（専門化）、統合化、平易化、この三者が相まってこそ学問は進歩し、人類社会の幸福が容易に実現できるのではないかと思われる。

で、かかる考えのもとに、知識の浅い私ではあるが、親しみにくい主要な用語を「人生篇」「哲学篇」「倫理篇」「社会篇」に分け、事実や具体例を入れてやさしく解説したのが本書である。したがってこの小著は、床の間に飾ってある高級美術品のようなシロモノではなく、すぐに役立つ鍋・釜といった台所用品にもたとえられるかもしれない。

ねがわくは、この貧しい書物が何らかの意味で、読者諸兄のめまぐるしい日常生活に、一つでもプラスするところがあれば、筆者にとって望外の幸いである。

一九八〇年早春

著者

上京して大学を卒業し、今は勤めている人ですが、ぼくのところへ来るといつでも「先生、いますか。」と言うのです。「いますか。」は失礼だから、何とか別の言葉にしたら。」と言うと、「それじゃあ、先生、おりますか。」と言うんですよ。（笑）これは、もともと出身の地域に敬語が発達していないため、表現方法をよく知らないからだと思いますけど。

高田 それで思い出しましたが、うちに東北から来た若い人がずっと手伝ってくれていたのですけど、私の母が帰るとき、「おはあちゃん、またおいで。」と言うわけ。それはかわいいけど、母にしてみれば「またおいでください。」とか「またいらつしやってください。」とか、そのぐらいの言葉は教えない。」と言うのです。「おいで。」と言うのは、考えると、いい言葉なんでしょう。（笑）そういう表現はそれなりにかわいいんですけど。

大石 地方によっては敬語がないという話が出ましたけれども、例えば東北一般は割合なのではないか。関東でもないところもあるし、西の方でも四国にないところがあるようです。ない地域と、それから標準語とは違うその土地独特の敬語のあるところがあると思います。

島田 逆に非常に敬語が発達しているところもありますね。

大石 ええ。ただ、いわゆる社交的敬語と言いますか。お互いどうしの付き合ひのための敬語は、東京など一般に都会地の方が発

達しているのではなからうかという気がします。また、地方で敬語の発達しているところもあるのですが、それは性格上どっちかというとき昔ながらの階級的な敬語が発達しているようです。例えば同じ村の中でも、本家あり分家あり、更にその分家があるというところだと、大本家の家長かなんかが最高の敬語で待遇される。家族の間でだけでなしに、そういうところ全体で本家の家長に対しては最高の敬語を使うというふうなものです。——都会の敬語と、地方の発達している敬語とは、性質の違うところがあるように感じます。

岩淵 東京でも、下町の方は簡単な言葉で言う、「母さん」とか「兄さん」とかで済ませているが、山の手だと「お母さま」とか「お兄さま」とかいうふうに違っていましたね。

島田 今でもそれはあります。「お母さん」と言わないで「お母さま」と言いなさいとか……。

外国語の表現の仕方、日本語の表現の仕方

内村 日本語と比較して、外国語の敬語というものは非常に少ない。だから日本でも敬語は要らないと言う人もいると思うのですが、私はその説に反対です。ヨーロッパの言葉は論理的に構成されることを主体にして今日に至っているのですが、日本の言葉の特徴は叙情的であり、そこに言葉の美しさもあるわけな

人生篇

生きがい——他人から与えられるものではない 19

「知ること」と「行なうこと」——「知識」と「行動」、
「理論」と「実践」 20

理想と現実——それは実現可能なものである 21

幸福——そのまま変らないで続いてほしいような状態 26

運命——ときに強く、ときにやわらかく叩く 29

人間性——この二つの意味 32

人間らしさ——神と野獣と 33

理性——その声に耳を傾けよう 34

本能——行動の原動力 36

性格——それは不変ではない 38

人格——その人の性格の総体 40

劣等感——正常な人なら誰しももっている 41

常識——定義を拒絶する言葉か 43

教養——これによって本来の人間となる 44

価値——人間の考え方によって生じ、左右される 46

文化——次の時代の肥料となるもの 49

自由——汝の名において、いかに多くの犯罪がなされたことか 50

死——永遠に眠ることができるもの 58

哲学篇

哲学を学ぼうとする人たちに——この三人の見解をおくる	65
思想、理論、学問——この三つを何によって区別するか	66
哲学に対する先入観——それを打破してほしい	68
知識・認識——まぎらわしい、この二つの用語	70
概念——本質をとらえる思考の形式	71
哲学——人生の羅針盤たりうるか	73
イオニア学派、ミレトス学派——西洋哲学の最古の学派	78
万物流転——ギリシャ語で「パンタ・レイ」 ⁸¹ という	79
ソフィスト——詭弁学派と呼ぶけれど	81
汝自身を知れ——自分の無知を自覚せよ	82
三段論法——代表的な演繹的推理	84
形而上学——「第一哲学」「無形の学」「存在論」ともいう	87
スコラ哲学——キリスト教の奴隷となった哲学	92
経験論——すべての知識は経験から生まれる	95
偶像——現代的にも意義のある「偶像破壊説」	97
理性論——知識の根源を理性におく	99
認識論——認識の起源、限界、対象について	100

カント認識論——こうして結論は下された	104
観念論——「知る」から「あるのだ」とする立場	108 106
唯物論——精神に対する物質の根源性を主張する	110
弁証法——現実をいかに見、いかに考えるか	113
弁証法的唯物論——弁証法と唯物論の結合	116
唯物史観——歴史を動かすものは物質である	118
プラグマティズム——行動主義、実用主義、道具主義	120
新カント学派——西南ドイツ学派とマールブルク学派	123
生の哲学——生は創造的進化する	126
実存哲学——人間は現実においてどのような在り方をしているのか	131
老荘哲学——「無」の思想と「文明否定の生き方」	134
国学——「もののあわれ」と「まごころ」	139
西田哲学——初めて独自の体系をもった日本の哲学	142
ニヒリズム——虚無主義・否定主義	145
ヒューマニズム——人間性尊重主義	

倫理篇

- 倫理・道德——モラルのために人間がつくられたのではない 151
- 行為——「知って行なわざるは知らざるに同じ」 155
- 良心——他人が見ているぞとささやく内なる声 157
- 正義——言うに易く、行なうに難し 159
- 道德的善悪判断の基準——現在、あなたはいかなる基準によっているのか 162
- 快樂主義——「人間が生まれたのは、快樂のおかげだ」 165
- 功利主義——「社会的快樂主義」の別名 168
- 利己主義——過失と不幸の源泉 171
- 禁欲主義——キニク学派とストア学派 173
- 理性主義——理性重視の禁欲主義 176
- 嚴肅主義——格調の高い理性主義 178
- 儒教倫理思想——ゆっくりと這うように生きている 179
- 仏教倫理思想——「自業自得」と「因縁」を中心にして 184
- キリスト教倫理思想——精神的「栄養失調症」とならないために 188

社会篇

- イデオロギー——実践に通じる思想体系 197
- 封建主義——「古い」「頑固」の代名詞 198
- 帝国主義——この侵略主義的なるもの 199
- 資本主義——主義は一つの実行である 204
- 自由主義——主義は主義によって誘われる 206
- ナシヨナリズム——人類の麻疹のようなもの 209
- 全体主義——反自由主義的、反民主主義的な思想 212
- ナチズム——野蠻性に満ちた全体主義 213
- ファシズム——団結に重点をおく全体主義 215
- 空想的社会主義——理想社会の実現を目ざして 216
- 無政府主義——權威、強制、束縛のない社会を 219
- マルクス主義——近代的プロレタリアートの解放のために 222
- レーニン主義——現代風に変身したマルクス主義 226
- ボルシェヴィキ——「ロシア共産党」の別名 228
- サンジカリズム——革命的労働組合主義のこと 229
- トロツキー主義——極左冒險主義 230

スターリン主義——独裁主義的マルクス主義	231
人民民主主義——新民主主義ともいう	233
新左翼——現代無政府主義の弟	234
社会民主主義——社会主義社会の実現を目ざして	236
民主社会主義——フェビアン主義と同類型	238
民主主義——不満を解消する合理的な方法	239
あとがき	245
索引	258